

2019.7.19（金）「市民活動スタッフ養成講座」活動報告

NPO サポートはこだて

函館市地域交流まちづくりセンター

荃沢 直子（くきさわ なおこ）

NPO サポートはこだて 常勤スタッフ、函館市地域交流まちづくりセンターに勤務しております
す荃沢直子と申します。

1970 年生まれ 49 歳。勤務歴は 1 年 4 ヶ月です。

函館市地域交流まちづくりセンター 略して【はこまち】は、官設民営です。

指定管理者は、NPO サポートはこだてグループ。わたくしども NPO サポートはこだてと、函館のビルメンテナンス会社のグループで、受託しております。

では、まずは はこまちの建物と歴史について お話させて いただきます。

この建物は 1923 年、大正 12 年に建てられたデパート、丸井今井呉服店 をリノベーションしています。2007 年 4 月より、まちづくりセンターとしてオープンしました。

特徴的なこの外観は、かつて函館市の観光ポスターにも採用され、ドラマや映画のロケ地にも使われております。函館の景観を形成する建物のひとつとして、函館市民にも、観光でいらした方にも親しまれています。

場所は、どのあたりかといいますと、標高 334 メートル、函館山山頂から見下ろすと、このあたり。函館山の麓・通称「西部地区」にあります。

JR 函館駅から、路面電車「函館市電」に乗って 3 つめ。十字街電停から徒歩 1 分。

函館以外の方からは「アクセスがいいですね」と、よく言われます。

はこまちから徒歩圏内にありますのは、函館を代表する、こちらの観光名所です。

(金森赤レンガ倉庫・函館ハリストス正教会など)

このように、はこまちは

- ・建物自体が観光名所であること
- ・観光スポットが集まる函館山の麓・西部地区に位置すること

このふたつの特徴から、オープン当初よりご来館者へのおもてなしのひとつとしまして、「観光案内業務」にも力をいれております。お手元のパンフレットにも掲載のとおり、デパート時代、昭和 9 年から時を重ねるエレベーターは、昭和レトロ感たっぷりです。

レンタサイクル事業にも協力している中間支援施設は、全国的にもレアなのではないかと思えます。

これまで申し上げましたとおり、函館を語るうえではずせないのが 観光業です。近年は

- ・北海道新幹線の開業
- ・豪華客船 入港の増加

などの追い風もあり、メディアの注目度も過去に例をみないほど 高い水準にあります。

函館市でも、このチャンスをいかすため、街並みや景観美のみならず「グルメのまち」など、さまざまな切り口で函館の旅を提案しています。函館市観光部からの情報ツールとしましては、お手元の

・観光パンフレット 函館旅時間

加えて、インターネットでは

・函館市公式観光情報サイト はこぶら

このふたつを活用した情報発信を行っており、はこまちスタッフも、フルに活用して「おもてなし」しております。

それでは、こちらをご覧ください。

地域に根差した業務を水色、観光案内業務を緑と、あえて色分けしてみました。この4つの緑
食 観光 教育機関等への函館学講座 移住定住の相談

これらは観光客の方のみならず、地域の方にも役立つものと考えております。

たとえば『教育機関等への函館学講座』。

はこまちには修学旅行生も数多く訪れることから、全国各地から、函館を訪れる学生に向けて、函館の歴史や建物についてお伝えしてまいりました。この講座内容は、函館の小中高大の学生には「まちの魅力の再発見」となり、郷土愛を育むうえでもおおいに役立ちますことから、各学校から定期的に講演の機会をいただいております。

『移住・定住』も同様です。

はこまちでは2009年5月より 移住・定住支援の相談窓口「移住サポートセンター」を開設しており、スタッフ全員で『移住・定住相談』業務を行っております。

この相談業務におきましても、はこまちでは観光案内業務で培った 知識や情報をいかしているほか、はこまちを訪れた観光客の方がスタッフと会話するうち、ここが移住定住の窓口でもあると気づいて、相談される方もいらっしゃいます。

このように、わたしたちはこまちスタッフは「とりわけ、この分野に精通している」というよりは、観光を軸に、幅広く対応を求められることが多い施設といえます。

耐震基準を満たせず、一時は取り壊すことも選択のひとつにあったこの建物が、大規模改修を経て、次世代へと受け継がれたことは「函館の魅力は街並み、景観である」ということを、市民がしっかりと認識している、何よりの証拠です。かつてデパートとしてにぎわった場所を、地域の方と、観光で訪れた方、双方が心を通わせる、新たな「にぎわいの場」へ。

これこそが、今日のはこまちの強みとなっているのではないかと 感じております。

先日も、こんなことがありました。

地域住民の方が、はこまちを訪れた観光客の方に

「知ってる？ここね、昔はデパートだったの。古いエレベーターがあるから、スタッフの人に乘せてもらいなさいよ」と、函館弁で話しかけてくださったのです。

はこまちの存在意義を 実感する場面のひとつです。

終わりの時間が 近づいてまいりました。

この活動報告データは、後日、インターネットで公開します。お気軽にダウンロードなさってみてください。

最後に、これだけはぜひ覚えて帰っていただきたいことを2点、申し上げます。

ひとつめは、現在のはこまちが普及活動に力をいれている「SDGs」です。

SDGsとは、サステイナブル ディベロップメント ゴールズの略。

持続可能な社会を目指すため設けられた、世界共通の目標で、国連が定めたものです。

という、函館の人々は

「自分たちの暮らしとは 関係ないのでは？」

「遠い国の話でしょ」と とらえがちなので、まずは「SDGsを知ってもらうこと」を第一に、啓発活動に取り組んでいます。

限られた予算ですので、思い切ったことはなかなかできませんが、センター内に SDGs のロゴを張り巡らせたり、お手元にお配りしました広報誌「はこまち通信」でも特集記事を組んだり、子ども向けのクイズラリーを開催したり。10月には市民活動団体向けに、勉強会を企画しております。

5月には、登録する市民活動団体のみなさんに

「自分たちの活動が、どれにあてはまりますか？」という問いかけをいたしました。

77団体から回答がありましたが、3番をあげた団体が1番多く、42団体、全体の55パーセントを占めました。

3番とは「すべての人に 健康と 福祉を」。

福祉に携わる市民活動団体が多いことは 肌で感じていましたが、

SDGsで「見える化」できたことは 私たちはこまちスタッフに

とっても、大きな収穫となりました。

SDGsの考え方は、少子高齢化、経済の衰退、空き家問題など、

様々な課題を抱える地方都市函館が、まさに必要としていることです。はこまちは

「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」を

強く意識しながら、活動をすすめてまいりたいと思います。

もうひとつは、毎年7月最終の日曜に、函館の市民活動団体が集結する「NPOまつり」のお知らせです。

「それぞれがそれぞれ」

だった活動から一歩踏み出して、団体同士の横のつながりを深めてもらえるような、そんな働きかけも、実践してまいります。

みなさん、もし函館に来られる機会がありましたら、ぜひ、はこまちでNPOまつりが開かれる7月下旬、最終日曜日にお越しください。函館の市民活動団体が、具体的にどんな活動を行っているのか。ぜひ、ご自分の目で確かめていただければと思います。